

目 次

令和 6 年度青臨技第 1 回臨床生理部門研修会報告.....	八戸赤十字病院	逆井 久美子	1 -
令和 6 年度青臨技第 2 回臨床生理部門研修会報告.....	弘前大学医学部附属病院	赤崎 友美	2 -
令和 6 年度青臨技第 3 回臨床生理部門研修会報告.....	弘前大学医学部附属病院	長尾 祥史	3 -
令和 6 年度青臨技第 1 回臨床血液部門研修会報告.....	大間病院	玉井 啓佑	4 -
令和 6 年度青臨技第 2 回臨床血液部門研修会報告.....	八戸赤十字病院	大石 峻也	5 -
令和 6 年度青臨技輸血細胞治療部門研修会報告.....	むつ総合病院	伊藤 あずさ	5 -
令和 6 年度青臨技病理細胞部門研修会報告.....	むつ総合病院	中村 安孝	6 -
令和 6 年度青臨技臨床微生物部門研修会報告.....	八戸市立市民病院	金澤 雄大	7 -
令和 6 年度青臨技臨床一般部門研修会報告.....	あおもり協立病院	高正 則幸	7 -
令和 6 年度青臨技臨床検査総合部門研修会報告.....	青森労災病院	吉田 泰憲	8 -
令和 6 年度青臨技生物化学分析部門研修会報告.....	五戸総合病院	池田 昂志	9 -
令和 6 年度青臨技染色体・遺伝子部門研修会報告.....	青森県立中央病院	野坂 知加	10 -
令和 6 年度第 6 回理事会議事録.....			-11 -
令和 6 年度第 7 回理事会議事録.....			-14 -
令和 6 年度第 8 回理事会議事録.....			-18 -

【研修会報告】

令和 6 年度青臨技第 1 回臨床生理部門研修会報告

八戸赤十字病院 逆井 久美子

講演 1：講師の佐藤舞技師より「呼吸機能検査をスムーズに進めるテクニックを伝授します。～座学編～」について学びました。呼吸機能検査は、いかに患者さんと息を合わせて検査を行うかによって、結果が大きく左右することを日々痛感しておりました。患者さんとのコミュニケーションや接遇について、詳しく学ぶことができた、大変貴重な機会となりました。相手に具体的でわかりやすい説明を行う言語コミュニケーションの他に、話すスピード、声の大きさやトーン、表情や態度など非言語コミュニケーションが大きく影響することを学びました。患者さんの言葉を受け止め、様子をしっかりと観察することで、検査を行う上で重要な情報も得られるため、今後実践していこうと思います。また、検査データの見方や関連性が理解できると、予測が立てられ検査時間の短縮にも繋がるため、知識をさらに深めていきたいと感じました。

情報共有：チェスト株式会社の丸龍幸さんより「呼吸機能検査装置の精度管理とキャリブレーション」について学びました。私自身知識が乏しいまま精度管理を行っていたため、今回の講演は大変貴重でした。改めて精度管理の必要性や方法などを知ることができ、これから自信をもって行えると感じました。

講義 2：講師の赤崎友美技師より「自信をもって、SVT と VT を鑑別しよう～そして、見えてきたぞ！PVC 起源～」について学びました。Wide QRS 頻拍の 80%、器質性心疾患があると 90%が VT であることを知

り、これほど頻度の高いものだとは知りませんでした。日々の検査で前回の所見と比較し波形に Wide QRS 変化が見られた際には、今回学んだことを生かし、バイタルサインの確認や、応援を呼ぶなど迅速な対応を心掛けたいと思います。また、房室解離をみつけるコツなども学び、ホルター解析などにも活用していきたいです。PVC 起源推定を心電図から読み取るなど、掘り下げた内容が盛りだくさんで、大変興味深く聞かせていただきました。

講義3：講師の高松みどり技師より「もう一度振り返る血圧脈波検査の基本～こんな時どうする～」を学びました。ABI 検査で確認すべき項目として、脈波形だけでなく、脈波振幅レベルや振幅グラフ、下肢だけでなく上肢の血圧値に左右差がないかなどが挙げられることを学びました。検査結果の解釈に自信が持てることで、不必要な再測定を行うことなく、患者さんの負担も軽減でき、大変貴重な講演でした。

講義4：講師の佐藤舞技師より「呼吸機能検査をスムーズに進めるテクニックを伝授します。～実技編～」について学びました。講義1を踏まえて、より実践的なコミュニケーションの活用法を学びました。検査がうまくできなかった際は、出来ていた部分を褒めてから、出来なかった部分の改善策を伝えるサンドイッチ法を用いると良いと教えていただきました。また、患者さんの性格や年齢、状態に合わせて、声の抑揚を付けたり、ジェスチャーを用いたりすることで、より理解しやすい説明を心掛けようと思います。日々の検査でなかなかうまくできないと感じていたことに対するちょっとしたコツなどを知ることができて、これから試してみようと思うことが沢山あり、大変勉強になりました。



令和6年度青臨技第2回臨床生理部門研修会報告

弘前大学医学部附属病院 検査部 赤崎 友美

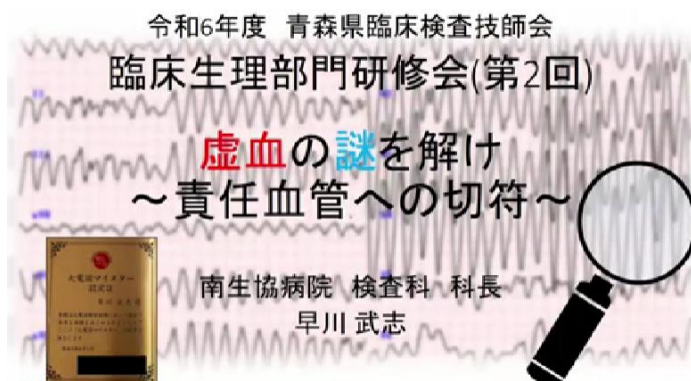
令和6年10月27日（日）、ZoomでLive配信形式にて開催された「令和6年度 青臨技臨床生理部門研修会（第2回）『私をマイスターに連れてって』」で座長を務めさせていただきました。参加者は青森県内にとどまらず他県からも300(?)名が集い、大変活気ある研修会となりました。本研修会は、南生協病院検査科科长であり、心電図のエキスパートである早川武志先生による講演「虚血の謎を解け～責任血管への切符～」と、続く『心電図よろず相談所』の二部構成でした。後者の『心電図よろず相談所』では、各施設から持ち寄られた判断が難しい症例について、講師が具体的な心電図判読を実践して下さいました。

講演「虚血の謎を解け～責任血管への切符～」では、急性冠症候群におけるST変化から責任病変を特定する方法や、病変が近位か遠位かを判断するテクニックについて、根拠を示しながら非常に丁寧に解説いただきました。特に、左冠動脈主幹部の責任病変が広範囲な心筋虚血を引き起こすリスクが高いため、理解しておく必要があります。今後の心電図判読に大変有用な内容でした。また、教科書や一般的な参考書には載っていない、講師の先生が長年の経験から培われた実践的なテクニックをこの短時間でわかりやすく学べたことに、深く感謝申し上げます。特に印象に残ったのは、「研修会をきっかけに急性冠症候

群の心電図で責任病変を言い当てることで、日々の業務の一つのモチベーションにしてください」とのお言葉です。日常業務で急性冠症候群の心電図をみたら、学んだテクニックを用いて責任病変を判断し、自分のスキルにしていきたいと感じました。

また『心電図よろず相談所』では、日常業務で判断に迷う症例を講師に判読していただきました。一見シンプルに見える症例であっても、講師の先生の鋭い着眼点により、私の予想を超える視点が示され、非常に勉強になりました。私も何例か症例を提示し、長年疑問に思っていた心電図所見についても解決できました。また、先生の判読手順を直接拝見できたことが非常に貴重で、大変充実した時間となりました。とくにリズム異常やペースメーカー波形など、私自身が不得意とする領域に関しては、アーカイブ配信を見直しながら復習していきたいと考えております。

今回の研修会に参加し、心電図の奥深さに改めて魅了され、今年度で最も実りある勉強会であったと感じています。今後もさらなる研鑽を積んでまいります。最後に、本研修会の企画・運営をしてくださった武田臨床生理部門長をはじめスタッフの皆様、またご講演いただきました早川先生に深く感謝申し上げます。



令和6年度青臨技第3回臨床生理部門研修会報告

弘前大学医学部附属病院 検査部 長尾 祥史

令和6年11月27日(水)、令和6年度青臨技第3回臨床生理部門研修会がWEBセミナー形式(ZOOM)にて開催されました。本研修会のテーマは、『心エコーのSenseとMethodを学ぶ』と題し、二部構成で実施されました。

第1部では「投票参加型EF目合わせクイズ-比べませんか? Visual EF-」と題し、10症例における視覚的左室駆出率(Visual EF)の推定を参加者が投票形式で行うという、クイズ形式かつ実践的な講演を行いました。症例は、正常心や虚血性心疾患、心筋症、不整脈、伝導障害など多岐にわたり、私が司会のもと、コメンテーターとして5名の臨床検査技師と1名の循環器内科医の先生方を交え、参加者が投票した推定値をもとに、実際の計測値とのズレやバラツキの要因について議論を深めました。議論では、局所壁運動異常を伴う虚血性心疾患の症例においては、計測値とのズレや評価者間のバラツキが大きく、梗塞による障害範囲も影響していることが考察されました。また、経験年数の浅い技師への指導法として、指導者とともに過去の症例を目合わせし、経験を擬似的に積むことの重要性や、類似症例への経験したケースの当てはめによる推定法などのノウハウが議論され、Visual EF推定の精度向上には経験が基盤となることが一致した見解として挙げられました。さらに、Visual EFは実際の計測値の妥当性確認やフィードバックに活用されることで、計測精度の向上につながることも議論され、今回の講演を通じ、自施設におけるVisual EF目合わせの取り組みが、技師間の精度差の最小化および臨床への貢献に不可欠であることを再認識することができました。

第2部では、弘前大学医学部附属病院循環器腎臓内科学講座の妹尾麻衣子先生による「逆流評価の

Method「説得力のあるエコーレポートとは」と題したご講演が行われました。この講演では、僧帽弁閉鎖不全症例における治療適応を検討するためのエコーレポート作成に必要なポイントについて詳説していただきました。まず、僧帽弁逆流（Mitral regurgitation: MR）の成因特定においては、僧帽弁尖の異常に加え、僧帽弁複合体および左房・左室の形態評価が必要であると指摘され、そのためには基本断面のみならず多断面での観察が重要であり、下位肋間からの傍胸骨左室長軸像での観察のコツや、交連部像をはじめとする各断面での評価の役割についても具体例を交えて解説いただき、丁寧で繊細なプローブ走査が要求されることを再認識できました。さらに、MRの重症度評価においては、定量評価が説得力のあるレポート作成に欠かせない要素であるとされ、各評価法の留意点や成因別の適用方法について実例を用いて説明していただきました。評価のコツとして後交連逸脱症例におけるMR jetの計測時に心窩部アプローチを用いる方法などをご教示いただき、臨床で即実践できるスキルを学ぶことができました。近年、僧帽弁閉鎖不全症例におけるMitraClipなど治療の幅が広がる中で、心エコー検査が果たす役割の重要性を改めて認識するとともに、本講演で得た知見を臨床現場に活かす必要性を強く感じました。

本研修会では、昨今のWEBセミナー等でも拝聴する機会が多くなった「Visual EF 目合わせクイズ」が県主催の企画として初めて取り入れられ、自身の技術を県内外の他施設、多数の方々と比較する貴重な機会となりました。また、僧帽弁閉鎖不全症例における心エコー評価について、再学習とともに実務に直結する新たな知見を得ることができたことに大変感謝しております。これらの学びを活かして、臨床へのさらなる貢献を目指して努力を続けていきたいと思います。

令和6年度青臨技第1回臨床血液部門研修会報告

国民健康保険 大間病院 検査科 玉井 啓佑

令和6年度青臨技臨床血液部門研修会が、令和6年11月9日（土曜日）に弘前大学医学部保健学科にて開催されました。プログラムは弘前大学医学部附属病院の川島健太郎技師と八戸赤十字病院大石峻也技師による「症例検討」と弘前大学大学院保健学研究科生体検査科学領域の山形和史先生による「出血性疾患・血栓性疾患の病態を知ろう！」でした。

「症例検討」では検査データ等の説明後に、顕微鏡を用いて末梢血液像と骨髓像の観察、その後に解説がありました。普段、骨髓像を実施していないこともあり、とても興味深く、アトラスではなく肉眼で見ることができ勉強になりました。今回の症例はCMLという結果で、検査データがWBC41490/ μL と異常高値からの精査でしたが、患者時系列データで見たところ、もっと早くに気づけたのではないかとという問題提起の症例でもありました。CMLは好塩基球の増加が特徴としてあります。患者の前回データではWBC12000/ μL 程だったが、好塩基球が百分率で4%と高値であり、その時に医師へ報告していれば、より早く治療を開始できたのではないかとする症例でした。当院は一般内科のみで、血液疾患等があれば大学病院等に紹介することが多い病院です。だからこそ、今回のような治療開始の速さが重要な疾患は早急に気づき、医師に報告する事が重要となってきます。山形先生も解説の際に仰っていましたが、病院ではチーム医療が重要であり、何かあれば気軽に相談できる関係性も大事であると感じました。

次に「出血性疾患・血栓性疾患の病態を知ろう！」です。山形先生がとても分かりやすく解説をしてくださいました。先生が指摘された通り、凝固・線溶系は難解で苦手なのですが、なるほどと思うことが多く勉強になりました。特に遭遇することが多い、敗血症からのDICに関しては理解が深くなったと感じています。当院の医師にも今回の資料を提供したところ好評でした。院内検査で測定可能項目が少ないのですが、医師と相談して項目を増やすことも検討していきたいと思います。

最後に研修会を開催するに当たりご尽力いただいた、講師の先生方、実務委員の皆様、その他、関わってくださった皆様に心より感謝申し上げます。

令和6年度青臨技第2回臨床血液部門研修会報告

八戸赤十字病院 大石 峻也

3月8日に第2回青臨技臨床検査部門研修会が『認定血液検査技師を目指そう！』というテーマで開催されました。

まず、「血球形態の基礎」と題してシスメックス株式会社の丸木先生に標本観察の仕方、各血球の形態的特徴、自動分析装置のスキヤットグラムの見方を丁寧に解説していただきました。細胞がこういった形態学的特徴をもっているからスキヤットグラムはこうなる、と理屈がわかると意外に簡単であり、スキヤットグラムを見慣れていない方でも理解しやすい内容であったと思います。

続いて、青森県立中央病院の寺島技師による令和6年度青臨技フォトサーベイの解説が行われました。出題された問題の正答率と各細胞の形態学的特徴を解説していただき、正答率の低かった芽球とリンパ球（正常・異常）の見分け方については特に詳しく説明していただきました。講演終盤には練習問題を5問出題していただき、演習が行われました。

最後に、「認定血液検査技師試験を振り返って」と題して八戸市立市民病院の石藤技師に認定血液検査技師の試験概要や試験対策について説明していただきました。出題形式や出題問題も紹介していただきました。受験を考えている方にとって非常に有力な情報であり、モチベーションになったと思います。

今回の研修会を通じて、改めて形態の重要性を感じました。日常業務では自動分析装置でのデータや鏡検から血液疾患を疑うきっかけになります。（認定血液検査技師試験でも形態から疾患を推測する問題が出題されるそうです。）形態を把握することは、スキヤットグラムの判読で異常形態を予測することができ、鏡検での異常所見の見落としを防ぐ事につながります。日常業務に役立つ内容であり、非常に有意義な時間でした。

令和6年度青臨技輸血・細胞治療部門研修会報告

むつ総合病院 伊藤 あずさ

「令和6年度 青森県臨床検査技師会 輸血・細胞治療部門研修会 輸血検査初級者のための実技研修会」を青森県臨床検査技師会の主催、青森県合同輸血療法委員会の共催で開催した。本研修会は、青森県内で輸血検査に従事する、検査初級者の技師を対象として研修会を行った。

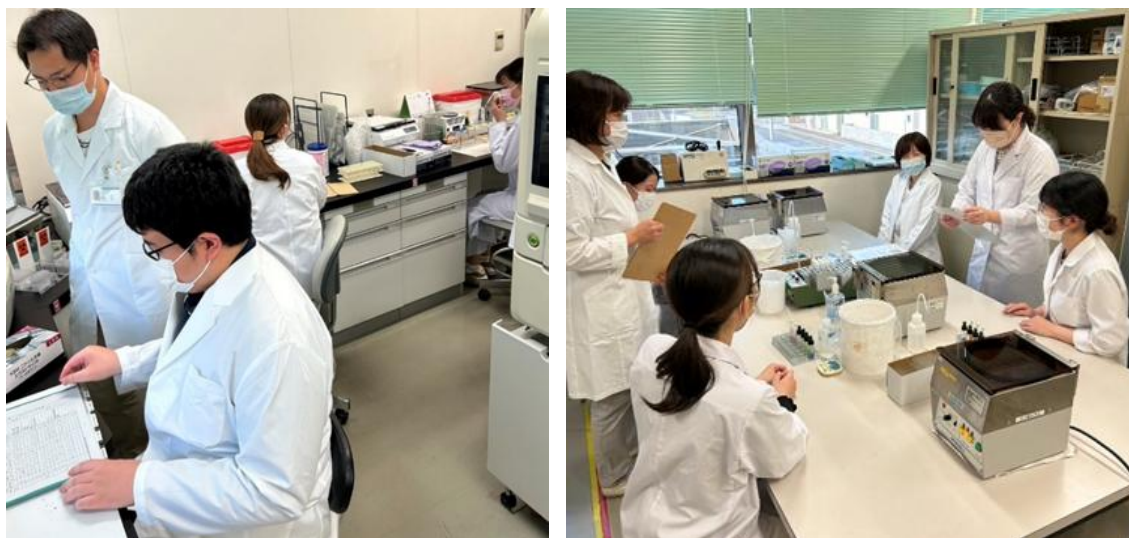
実技研修会は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、約5年の間開催できなかった。そこで、久しぶりに企画開催する実技研修会は輸血検査初級者を対象に、輸血検査の基礎を実技研修から学び、その後の講義でさらに知識を深められるよう企画開催された。また、この5年の間に「赤血球型検査（赤血球系検査）ガイドライン」や「輸血のための検査マニュアル」の改訂があり、これを機にガイドラインやマニュアルに沿った実技研修会を行い、改訂についても周知できればと考えた。今回の研修会は実技をメインとし、輸血検査には欠かせない血液型検査や不規則抗体スクリーニング及び同定検査を実施した。また、改訂された不規則抗体同定時の消去法について、ガイドラインやマニュアルに沿って講義を行った。不規則抗体スクリーニング陽性時に必要となる消去法を実技研修後に講義を行うことで、より分かりやすく学び今後の検査の進め方を習得できたと考えられる。今回は輸血検査初級者を対象に実技研修を行ったが、青森県合同輸血療法委員会が共催したことで、受講者7名に対し実務委員8名と十分な人数の実務委員を確保でき、参加者一人一人に細かく指導することができた。また自施設での検査に対する質問についても、実務委員からアドバイスすることができた。参加者は同年代の技師が多く、今回の研修会を通して横のつながりを作り、今後の業務にも活かせるのではないかと感じた。

アンケート調査においては回答者全員が研修内容に満足という結果であった。また、希望する実技研修会の開催頻度は1年に1回から複数回と回答していた。5年もの間開催できなかった実技研修会ですが、

今後は定期的に継続した実技研修会開催が望まれていると感じた。

今回の初級者のための輸血検査実技研修会を行ったことで、輸血検査の実技基礎を学び、より安心して安全な輸血医療を行うための一助となることが期待される。

【研修会の様子】



令和6年度青臨技病理細胞部門研修会報告

一部事務組合下北医療センター むつ総合病院 中村 安孝

令和6年度青臨技病理細胞部門研修会（第1回）を、2024年11月29日WEBにて開催いたしました。講師はH.U. フロンティア株式会社 商品・サービス開発課 中條聖子先生にお願いし、「分子標的治療におけるバイオマーカー ～次世代遺伝子関連検査～」という内容で講演頂き、30名の方が参加されました。

がん治療において、がん分子標的薬が各種がん腫の標準治療に取り入れられるようになり、バイオマーカーの重要性が高まっております。今回はそのような多くの治療選択に関わるバイオマーカー・遺伝子検査について教えていただきました。

内容は、遺伝子関連検査の概要として遺伝子異常の仕組みから検査工程、遺伝子関連検査の分類、検査協会における品質保証体制、検査実施状況のアンケート調査報告が示されました。また、次世代遺伝子関連検査として、個別化医療・コンパニオン診断の現状として肺がんや大腸がんなどの遺伝子異常・変異と対応薬剤、検出検査の特徴比較、検体提出における問題点なども示され提出側にとって大変参考になりました。

我々病理検査に従事している技師は、日々新しい情報を取り入れ、臨床側からの問い合わせ、また精度の高い検体を準備することが求められております。その事が患者さんに有益となり治療の可能性が広がります。

新しいバイオマーカーや遺伝子検査を理解、整理し日常業務に生かしていくこと、新規検査において病理部門が情報提供の役割を担い、間接的にも治療に参画していかなければならないと、この講演を通して感じました。

令和 6 年度青臨技臨床微生物部門研修会報告

八戸市立市民病院 金澤 雄大

令和 6 年度青臨技臨床微生物部門研修会（第 1 回）を、2024 年 11 月 30 日に青森市にて開催いたしました。

本研修会は「薬剤耐性菌」をメインテーマとしました。事前アンケートにより各施設の薬剤耐性菌検出に係る検査の実態を調査し、それに関連する解説を実施しました。微生物検査は他部門と比較し標準化が進んでおらず、施設ごとに検査プロセスや結果報告のルールはブラックボックス化しています。まず施設ごとの実態を明らかにし、県内全体で共有することにより自施設の問題点を明確にさせていただき改善し、その先にある青森県内の標準化を目的とし、その第一歩としました。アンケートで判明した問題点として、最新版の CLSI に準拠していない薬剤感受性パネルで検査している、薬剤耐性菌の検出試薬で適応でない菌種を検査しているなどが挙げられました。来年度以降、再度アンケートを実施し、これらについて改善されているか再調査する予定です。

講演では山形県立新庄病院の茜谷大輔先生を招請し、「感染症診療に有用な情報提供とコミュニケーション」についてご講演いただきました。どんなに正確な検査を実施しても、医師や看護師にこちらの考えが伝わらなければ、検査結果の価値が下がってしまいます。そこで結果報告の仕方や医師とのコミュニケーションのテクニックについて、茜谷先生の経験も交えつつお話いただきました。特に実際の症例において、臨床検査技師から医師へ追加検査を提案し、患者の QOL 向上に寄与した事例については、診断支援（Diagnostic Stewardship）の観点から非常に重要であり、われわれも日常検査において積極的に実施しなければならないと感じました。

先に述べましたが、臨床微生物部門では「標準化」が課題であり、今後も研修会や精度管理調査により、標準化に取り組んでいきたいと思えます。

令和 6 年度青臨技臨床一般部門研修会報告

あおもり協立病院 高正 則幸

令和 6 年度の一般部門研修会は、令和 6 年 12 月 7 日に青森市新町キューブで 13 時から現地開催されました。

講演 1 は『IBD における便中カルプロテクチン検査の意義』アルフレッセファーマ株式会社大村稔先生のご講演でした（座長 野田香奈子技師）。繰り返す下痢は IBS と IBD に大きく分類され、今回は特に IBD と呼ばれる UC（潰瘍性大腸炎）と CD（クローン病）について、評価指標や画像所見、MES（1~4）、症状、再発再燃、それらの検査方法について解説していただきました。IBD は「完治はしない」「QOL の維持に努める」「再発と寛解を繰り返す」といったキーワードが重要だと感じました。その治療戦略において現在の患者の状態が MES1~4 評価のどの段階にあるのかと知ることは重要で、その多くは内視鏡所見に基づいて評価されてきました。今回提案された便中カルプロテクチンは非侵襲的に、室温での安定性が高く、便中に比較的均一に分布しているバイオマーカーで使い勝手がよく、日本以外では広く使用されているようです（日本での使用率が低いのは保険の問題もあるようです）。カルプロテクチンは MES 評価の 1~2 の内視鏡では区別が難しいような炎症度合も評価可能で、再燃の判断などに有用です。専用測定機器が必要なので、当院では外注検査で行っている検査ですが、UC や CD の患者様は当院にもいらっしゃいます。近日中に青森県内の病院に機械が納入される予定と伺いました。今後検査が広まっていけば、IBD の患者様の再燃評価が容易になり、QOL の向上に寄与するのではないかと思います。

講演 2 は『尿中赤血球の鑑別と悪性細胞の鑑別』シーメンスヘルスケアダイアグノスティクス株式会社の八木靖二先生のご講演でした（座長 手代森京花技師）。糸球体性赤血球/非糸球体赤血球の鑑別でのキー

ワードは、「単調な」浸透圧の尿の中を通過してきたか、「様々な」浸透圧(50~1200mOsm/kg)の中を通過してきたかということです。単調な浸透圧の中を通過した赤血球は、形態変化があっても均一な変化をします。それがこぶ状であっても、金平糖状であっても、膨化状であっても、一様な変化です。一方で、様々な浸透圧の中を通過した場合は、様々な形態変化を示します。膜変化に関しても、厚みに偏りがあったり、形態変化もバラエティに富んでいたり、様々なようです。これを腎臓の病理画像やイラストを用いて系統的に解説していただきました。他にも実際の尿沈査赤血球のきれいな画像を用いてクイズ形式でご解説頂きました。たくさんの糸球体性/非糸球体性を比較することで、私の自信につながったと思います。良/悪性細胞の鑑別でのキーワードは「細胞質をみよう」です。悪性細胞の鑑別というと、まずは核をみてクロマチンの増量やN/C比、その後細胞質や集積性、結合性、配列などの確認が教科書的な見方だったと思います。今回の先生のご講演では、「核異型の弱い悪性細胞」「核異型の強い良性細胞」も存在する、「核異型が強くて細胞質が正常に分化している場合は正常細胞の可能性が高い」ことをご教示いただきました。根拠として先生のがん研有明病院でのご経験や、尿路細胞系の悪性細胞は守る機能が不要のため細胞質が薄くなるといった論理的な根拠を示していただきました。

余談ですが、異型細胞と呼ぶことに対しての違和感も話されており、異型性は良性でも悪性でもある、と。反応性や、良性、悪性といった表現を先生は使われていました。また、細胞の大きさや脂肪顆粒の有無も大きな鑑別点となるそうです。小さすぎる核/細胞、脂肪顆粒を含有した細胞(特に尿路、扁平上皮系で重要)は悪性細胞を見逃さないために重要です。

今回の講演は多数の著書をもつ著名な八木先生のお話を生で聞ける貴重な経験となりました。先生のお話しされる姿からはとても大きな熱量を感じました。講演後の質疑応答も活発でした。また情報交換会では、死ぬまですっと進化し続けるんだよ、今までの知識に縛られないでどんどん新しい知識を得ていくんだとお話しされているのが印象的でした。オンライン学習が主体となっている昨今ですが、日々のルーチンで忙殺され、学習の機会が減っていた自分にとっては非常に強い刺激を受けました。現地開催のために来青していただいた講師の先生、部門長、メーカーの皆様、研修会の運営をして下さった方々、参加者の皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

令和6年度青臨技臨床検査総合部門研修会報告

青森労災病院 吉田 泰憲

2024年12月10日に、令和6年度 青臨技臨床検査総合部門研修会(第1回)をWebにて開催致しました。講師はアボットジャパン合同会社 医学総括部の中山 洋一先生を迎え、「論文投稿の基礎知識」と「学会発表のための基礎知識」と題してご講演頂きました。

仙台市で開催の日臨技北日本支部医学検査学会の開催直前ということもあり、70名の参加を頂きました。論文投稿や学会発表については分かりやすい解説書などはないため、特にこれから学会発表や論文投稿をする機会が多い若手・中堅者に対し、準備や取り組み方を学んで頂ければと思い企画しました。

論文投稿の基礎知識については、論文の構成について理解しておくことが重要であり、一般的には、はじめに、方法、結果、考察などの順に記述しなければなりません。また引用文献および参考文献の記載も忘れてはなりません。またタイトルについても、ぜひ読んでみたいと興味を持たせるなどの工夫が必要と述べていました。

学会発表においては、研究の目的、方法、結果、考察を明確にし、聴衆が理解しやすいように整理しなければなりません。発表用のプレゼンテーション資料については、視覚的にわかりやすく、ポイントを絞って作成することが重要です。またフォントサイズや色使いにも注意し、見やすさを確保しなければなりません。

発表のリハーサルを行う事で、時間内に収める練習や質問への対応に備えることで、当日の緊張を和ら

げることができるそうです。

今回ご講演いただいたスライドについては著作権の問題で頂くことが出来ませんでしたが、中山先生よりスライドで紹介した内容の参考・引用資料の URL を頂いたので、青森県臨床検査技師会ホームページの「学術」→「投稿規定」に掲載しているので参考にさせていただきたいです。

令和 6 年度青臨技生物化学分析部門研修会報告

五戸総合病院 池田 昂志

令和 7 年 2 月 15 日（土）、Zoom の Live 配信およびオンデマンド配信にて「令和 6 年度 青臨技生物化学分析部門研修会」が開催され、38 名が参加されました。研修会では青臨技精度管理調査報告と講演 3 題が行われました。

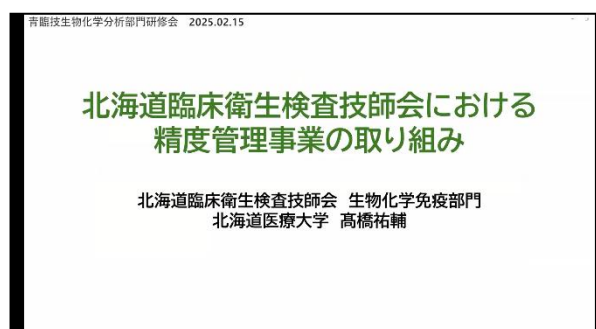
まず初めに、「青臨技精度管理調査報告（生物化学分析部門）」が青森労災病院の松館洸一技師より行われ、精度管理調査概要、評価結果、アンケート集計結果が報告されました。アンケート集計結果では、SMBG の指導をしている職種や精度管理の実施方法、CGM の装着等について解説していただきました。またその悩みや課題も紹介されました。

次に、「診断支援システム(DSS)による臨床貢献 ～DX 時代に向けた検査部門における臨床貢献のあり方～」と題してアボットジャパン合同会社の池宮健文先生より講演が行われ、検査データの解析ロジックによる診断支援、追加検査依頼による医療収入の増加など、DSS による効率化、臨床貢献について実例を交えてお話していただきました。ロジックを可視化したロジックツリーは検査技師が臨床へ説明する場合の補助として、また知識の向上のための教材としても役立つと感じました。

最後に、北海道医療大学の高橋祐輔先生より、「キャリアアップ～臨床検査技師を養成する立場へ～」、「北臨技における精度管理調査の実際」の 2 講演が行われました。「キャリアアップ～臨床検査技師を養成する立場へ～」では、大学の教員としての立場から、教員になるために必要なことについて、学生の教育、研究活動や学部の運営等多岐にわたる業務の内容について講演していただきました。これからは実務経験のある教員が求められるということで、病院勤務の検査技師にとっても大変参考になる内容でした。

「北臨技における精度管理調査の実際」では、精度管理調査の運営者の立場から、都道府県の精度管理調査で JAMTQC システムを利用するメリットや注意点について、北臨技での試料の作成方法について講演していただきました。試料の安定性向上のため血清は凍結保存せず冷蔵で配布することで一括評価が可能になったとのことで、青臨技サーベイでも同様の方法で評価方法の改善、効率化ができるのではと感じました。

今回の研修会は、これからの臨床検査技師の臨床貢献について、あるいはこれからのキャリア形成について考えさせられる内容であったと思います。本研修会を企画・運営してくださった方々、講師の方々に深く感謝申し上げます。



令和 6 年度青臨技染色体・遺伝子部門研修会報告

青森県立中央病院 野坂 知加

令和 6 年度 青臨技 染色体・遺伝子部門研修会は、令和 7 年 3 月 1 日（土）に Zoom によるライブ配信形式で開催し、県外 3 名を含む 20 名が受講しました。

研修会を企画するにあたり令和 6 年度 青臨技精度管理調査のアンケート結果（48 施設）から、遺伝子検査の基礎に関する内容に焦点をおきました。

講演 1 では、八戸市立市民病院の高畑英智技師より、令和 6 年度 青臨技 染色体・遺伝子部門精度管理調査のアンケート結果についてご報告いただきました。講演 2 では、アンケートで要望のあった「遺伝子関連検査を行う環境構築の注意点」と「PCR の基礎」について、サーモフィッシャーサイエンティフィックテクニカルサポートの白神博先生にご講演いただきました。

白神先生の講演内容は幅広く、作業環境や使用機器の分離方法、コンタミネーションの回避策、マイクロピペットの正しい操作法、試薬の適切な温度管理、試薬溶液の混合方法がデータに与える影響、PCR とリアルタイム PCR の違い、プライマー設計、PCR 増副産物の確認方法やトラブルシューティング、検査に必要なコントロールの設定など、いずれも基本的な事項ではありますが、動画を交えた分かりやすい説明で、研修会後のアンケートでは「何気なく行っていたピペット操作を見直すことができ、次に生かせる良い情報だった。」「PCR を行っていないが、基本的なピペットの操作方法、作業環境など大変勉強になった。」などの感想が受講者から寄せられ、普段遺伝子検査を行っていない技師にも有益な情報提供ができたと感じました。

遺伝子検査は大きく病原体遺伝子検査、体細胞遺伝子検査、遺伝学的検査に分類されますが、アンケート結果から病原体遺伝子検査を導入している施設が多いことが分かりました。これは SARS-CoV-2 関連検査の影響が大きいと推察されますが、次回もまた遺伝子検査担当検査技師が今まさに何を知りたいかを考慮し、研修会を企画したいと考えています。

最後に、本研修会の講師を務めてくださった高畑英智技師、白神博先生、そしてお忙しい中ご参加いただいた会員の皆様に深く感謝申し上げます。

【理事会議事録】

令和6年度第6回理事会議事録

1. 日 時：令和6年9月19日（木）18:00-19:10
2. 出席者：奥沢悦子、吉田泰憲、木村正彦、逆井久美子、久保沢勇亮、佐藤舞、高松みどり、小山内誠、齋川牧子、齋藤賢、鳥谷部慎子、中島有里、金子なつき、佐々木義明、野中健一、石鳥純子、千葉満、齋藤浩治、中村忠善
3. 欠席者：須藤安史

定款第5章第32条及び諸規定により、議長に奥沢会長があたり、書記に齋藤賢理事が指名され、オンラインで審議が行われた。

【報告事項】

1. 学術部経過報告

吉田学術部長より以下の報告があった。

① 各種研修会

・青臨技関連（日臨技システム登録分）のみ

- 07/14 第37回 弘前市 市民の健康祭り 参加者：10名
- 08/31 令和6年度（第49回）医師：検査技師卒後教育研修 参加者：51名
- 09/04 令和6年度 第1回下北支部研修会 参加者：16名
- 09/14 令和6年度 青森県自治体病院・診療所協議会 臨床検査部会研修会
参加者：24名
- 09/18 令和6年度 三八支部 生物化学分析部門研修会
参加者：34名(Webでの確認分)
- 09/26 令和6年度 三八支部 臨床一般部門・生物化学分析部門研修会
- 09/28 令和6年度 WEB開催 輸血セミナー
- 10/01 令和6年度 三八支部 臨床検査総合部門研修会
- 10/05 令和6年度 青臨技 臨床生理部門研修会（第1回）
- 10/27 令和6年度 青臨技 臨床生理部門研修会（第2回）
- 12/07 令和6年度 青臨技 臨床一般部門研修会（第1回）

・北日本支部

- 10/12 令和6年度 臨床一般部門研修会（現地：北海道）
- 10/19 令和6年度 臨床生理部門研修会（現地：福島県）
- 10/26 令和6年度 生物化学分析部門研修会（現地：北海道、オンデマンド）
- 11/16 令和6年度 臨床微生物部門研修会（現地：福島県）
- 12/14～12/15 第12回 日臨技北日本支部医学検査学会 宮城県仙台市

② 令和6年度 青臨技精度管理調査について

各部門長へ今年度の開催要綱を確認中・・・締め切り日：9/20（金）
検討課題・・・遺伝子・染色体部門において行う場合の経費（試薬・備品等で50万円弱）

③ 青臨技会誌について

藪内先生（十和田市立中央病院）を含めて3題の投稿あり（査読中）

- ④ 北日本支部座長推薦依頼があり、各部門長へ相談し、選出する。6部門（数字は依頼担当分野）管理運営 1、微生物 4、臨床化学 2、血液 5、生理 11、輸血 4

2. 公益部経過報告

木村公益部長より以下の報告があった。

令和6年度高校生心電図検診の後期入学者スケジュールが決定した。

北斗高校通信制：10月5日（土）午前10時30分～

受診予定者数（男子10名、女子7名）

尾上総合高校通信制：後期入学者がいなかったため、心電図検診の実施は無し。

3. 渉外部経過報告

奥沢会長より県の災害マニュアルが完成し査読中との報告があった。

4. 事務局経過報告

逆井事務局長より以下の報告があった。

- ① 会員動向 会員数640 今年度の新入会員12名、再入会2名、転入3名、転出7名、退会2名、名誉会員7名、永年会員51名
- ② 賛助会員 現在18社 バナー4社 9月末申込締切 例年30件は超えるので、時期を見て再度のご案内を検討。
- ③ サイボウズOfficeの価格が11月より変更あり。1ユーザー500円から600円へ値上げ。現在契約人数は53名。
- ④ 地域ニューリーダー育成研修会（未受講者3）の推薦の締切が10月1日となっており、久保沢理事へ参加を打診し、了承が得られた。
 - ◎事前Web
 - ◎集合型研修：東京都 2025.1.18～1.19（1.17前泊あり）
 - *地臨技負担30,000円、自己負担2,000円（交流会費）
- ⑤ 精度管理試料の梱包日
11月2週目での指示があったので、場所は八戸赤十字病院で確保している。段ボールや梱包資材は昨年度と同様にこちらで準備する。
- ⑥ 75JAMTについて
進捗状況：学会のロゴが決定した。これからポスターをいくつか起案していく。
9/23に全国学会の会場視察に行くので何か確認したい事項がある方はサイボウズで連絡してください。

5. 奥沢会長より報告

- ① 災害関連について
9/24：県庁に行つて災害協定に関する話し合いをする（日臨技では最優先事項）
9/28：内閣府の大規模災害訓練（DMAT参加）に初めて日臨技として千葉県臨床検査技師会等が参加する。
- ② 青森県・北日本支部研修会・北日本学術集会について
積極的な参加をお願いします。必要に応じて奥沢より会員各位および施設責任者へのリマインドメールを送信する。
- ③ 八戸市立市民病院からの依頼（臨床検査委託業務総合評価落札に伴う学識経験者2名の選出）に

ついて

今年度は八戸赤十字病院の野中健一氏、青森労災病院の中村忠善氏に依頼し、快諾していただいた。

- ④ 日臨技へ相談するときは日臨技の事務局に直接連絡するのではなく、まずは北日本支部学術部門長の奥沢か北日本支部の早坂支部長に連絡・相談すること。
- ⑤ 技師連盟について
理事は積極的な加入をして頂きたい。

奥沢

7/15(月・祝)：臨地実習講習会ファシリテーター

7/27(土)：日臨技理事会（川崎）

8/24(土)：日臨技依頼 JIMTEF アドバンスコース ファシリテーター（東京）

8/30(土)、31(日)：第 62 回 大韓臨床病理士学会・国際カンファレンス（韓国）

9/3(火)：日臨技 在宅・救命救急 WG（web 会議）

9/7(土)：青臨技西北五支部夏季研修会(五所川原)シンポジスト

「対策急務！！今必要な災害の備えとは それぞれの視点から」

【議題】

- 1. 令和 6 年度都道府県技師会リーダー育成研修会の開催について
日臨技からの役員派遣有りで今年度も開催したいとの提案があった。
理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。
- 2. 役員候補者選出委員について
齋藤浩治監事を推薦したいとの提案があった。
理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

【その他】

- 1. タスク・シフト／シェア講習会について
10/20 に開催予定の講習会は定員（60 名）に達した。
- 2. 令和 6 年度災害支援人材の育成計画に基づく研修会（JIMTEF）について
県立中央病院の小倉氏に決定して申し込みをした。
- 3. OSCE の選出について
前回は奥沢会長と吉田副会長が選出された。今回は血液・輸血担当の部門長に打診する。
- 4. 学術研修会の開催案内について
各部門で企画する学術研修会について、申請書、予算書と共に開催案内（案）も部門長が作成できないか協議された。
協議の結果、事務局で作成する現状を継続することとした。

上記の事項について理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。
議長は以上をもって審議を終了したことを告げた。

令和6年度 第7回理事会 議事録

1. 日 時：令和6年11月26日（火）18:00-19:10
2. 出席者：奥沢悦子、吉田泰憲、木村正彦、須藤安史、逆井久美子、久保沢勇亮、
佐藤舞、高松みどり、齋川牧子、齋藤賢、鳥谷部慎子、中島有里、
金子なつき、佐々木義明、野中健一、石鳥純子、千葉満、齋藤浩治、
中村忠善
3. 欠席者：小山内誠

定款第5章第32条及び諸規定により、議長に奥沢会長があたり、書記に齋藤賢理事が指名され、オンラインで審議が行われた。

【報告事項】

1. 学術部経過報告
 - ① 各種研修会
 - ・青臨技関連（日臨技システム登録分）のみ
 - 09/26 令和6年度 三八支部 臨床一般部門・生物化学分析部門研修会 参加者：32名
 - 09/28 令和6年度 WEB 開催 輸血セミナー 参加者：28名
 - 10/01 令和6年度 三八支部 臨床検査総合部門研修会 参加者：51名
 - 10/05 令和6年度 青臨技 臨床生理部門研修会（第1回） 参加者：49名
 - 10/27 令和6年度 青臨技 臨床生理部門研修会（第2回） 参加者：257名
 - 11/09 令和6年度 青臨技 臨床血液部門研修会（第1回） 参加者：29名
 - 11/10 全国「検査と健康展 2024 青森県」 参加者：9名
 - 11/12 令和6年度 第2回 下北支部研修会 参加者：登録なし（要確認）
 - 11/20 令和6年度 三八支部 臨床生理部門研修会 参加者：35名
 - 11/27 令和6年度 青臨技 臨床生理部門研修会（第3回）
 - 11/29 令和6年度 青臨技 病理細胞部門研修会（第1回）
 - 11/30 令和6年度 青臨技 臨床微生物部門研修会（第1回）
 - 11/30 令和6年度 青臨技 上十三支部合同研修会
 - 11/30 安全な輸血医療を行うための研修会
 - 12/04 令和6年度 三八支部 臨床血液部門研修会
 - 12/07 令和6年度 青臨技 臨床一般部門研修会（第1回）
 - 12/10 令和6年度 青臨技 臨床検査総合部門研修会
 - 12/11 令和6年度 三八支部 臨床微生物部門研修会
 - ・北日本支部
 - 01/10 令和6年度 輸血細胞治療部門研修会（オンデマンド配信） 残 192名/300名
 - 01/11 令和6年度 染色体・遺伝子部門研修会（現地：岩手県） 残 86名/100名
 - 01/18 令和6年度 臨床血液部門研修会（WEB） 残 148名/200名
 - 01/18 令和6年度 臨床検査総合部門研修会（オンデマンド配信） 残 97名/200名

12/14～12/15 第12回 日臨技北日本支部医学検査学会 宮城県仙台市

- ② 令和6年度 青臨技精度管理調査について
現在、回答を受付中・・・締め切り日：11/28（金） 17:00

※11/25（月）・・・申込み担当者へ回答締切の一斉メール済み

③ 青臨技会誌について

投稿論文8題・・・最終確認中（4題は最終確認済み）・・・11/28が回答期限

④ 北日本支部学会に関して・・・シンポジストへの宿泊費に関して

基本的に日臨技から青臨技へ依頼があったものについては交通費および一泊分の宿泊費（上限あり）を負担するが、JAMT 関連でもシンポジウムなど直接個人への依頼があった場合の経費については、青臨技は負担しない。

⑤ 永年会員への日臨技（北日本支部学会など）からの抄録配付に関して

以前から相談していた、青臨技の永年会員（日臨技非会員）への日臨技関連の学会冊子の配付について、日臨技は非会員のため送付は不要。

⑥ バーコードリーダーの保有数について

日臨技事務局より、各支部で使用しているバーコードリーダーの経年劣化・読取り不良等のお問い合わせもあることから、保有台数を確認したい連絡あり。

（型番も必要？）

吉田保有：シンボルLS2208 ガンタイプ レーザースキャナーバーコードリーダー

2. 公益部経過報告

木村副会長より高校生心電図検診について以下の報告があった。

令和6年度は後期入学分も終了した。

3. 渉外部経過報告

須藤渉外部長より「検査と健康展」について以下の報告があった。

11/10に八戸ショッピングセンターラピアで去年と同じ内容で実施した。配付物は用意した500部のうち400部ほど配付し、残ったものは無駄にならないよう各自持ち帰り身近な人に配付してもらった。今回はモニターを用意して臨床検査技師の紹介動画を流したり、認知症のポスターも掲示した。市内の中学校に案内したためか学生の参加が昨年度より増えたため、来年度は高校への案内も検討する。

4. 事務局経過報告

（一社）青森県臨床検査技師会

会員数637名 名誉会員7名、永年会員51名

新入会12名、再入会2名、転入3名、転出8名、退会4名

① 奨励賞の公募について

期日は令和7年2月7日（金）

支部長へ書類が行くのでサイボウズで応募があったことをお知らせください。また、書類は確認後事務局へ送付をお願いします。

② 永年会員の募集について

期日は令和6年12月20日（金）

現在1名申込あり。

③ 青森市精度管理専門委員会による衛生検査所立入検査の実施について

石鳥純子理事が以下の日程で実施。

令和6年11月5日（火） BML 青森

令和6年11月8日（金） 一般社団法人青森県薬剤師会食と水の検査センター

④ 青臨技の実印破損について

経年劣化による破損が印鑑部分まで広がっているため再度作成して登録した方がよいと司法書士の先生から案内あり。会長の承認が得られたため進めていく。

⑤ 令和7年度学校心電図検診事業について

医師会から協力要請がきている。

⑥ 来年度の県学会一般演題の募集期間について

1月20日に案内を発行し、登録期間の締め切りを昨年度より二週間早める。

5. 奥沢会長より報告

① 青森県内：OSCEの選出について

八戸市立市民病院 大井氏、八戸日赤 零石氏

② 日臨技関連

- ・物価高騰に伴う具体的な経費削減に向け、予算委員会では意見がだされている。
「医学検査」発刊・発送等を電子書籍へ移行する方向となり、電子書籍に移行にあたり意見を求める動きがある。
- ・物価高騰であるが、精度管理事業は臨床検査の根幹を成す重要な部分であり、本事業は優先させる代わりに、他の節約できる部分について意見がだされている。
- ・支部学術集会や全国学会の視察での人数は10名以下と決定した。
- ・全国臨床（衛生）検査技師会会長会議が実施されていたが開催無しと決定した。
- ・「検査と健康展」の見直しに向けたアンケート調査・意見聴取の実施が決定された。
「*今回の配布物が比較的種類が多いことや、500セットを有効に配布する方法の一つに、高校生心電図、野球肘検診でも配布してはどうか」

③ 北日本支部幹事会

2020年度	令和2年度	全国	福島県（仙台）
2020年度	令和2年度		コロナで延期
2021年度	令和3年度	第9回	岩手県
2022年度	令和4年度	第10回	北海道
2023年度	令和5年度	第11回	福島県
2024年度	令和6年度	第12回	宮城県
2025年度	令和7年度	第13回	新潟県
2026年度	令和8年度	第14回	秋田県
2027年度	令和9年度	第15回	青森県→山形県
2028年度	令和10年度	第16回	山形県→岩手県
2029年度	令和11年度	第17回	岩手県→青森県
2030年度	令和12年度	第18回	北海道
2031年度	令和13年度	第19回	福島県

2032 年度	令和 14 年度	第 20 回	
---------	----------	--------	--

北日本支部医学検査学会の担当順は、全国学会を担当する場合適宜繰り下げて、以降は入れ替えた順番を基本とする。宮城県→新潟県→秋田県→山形県→岩手県→青森県→北海道→福島県とする。

- ・タスクシフト講習会の開催は今後合同開催なども検討が必要。

- ・2024 年 12 月 14～15 日北日本支部学術集会（仙台）

一般演題 : 156 題

北海道 24 題、青森県 11 題、岩手県 9 題、秋田県 17 題

山形県 10 題、福島県 26 題、新潟県 17 題、宮城県 37 題

東京都 1 題、日臨技 1 題、日本臨床検査医学会 1 題、学生 2 題

74JAMT 全国学会の演題締め切りは 12/2

6. 東北臨床検査薬卸連合会との協定案について

サイボウズで確認して下さい。内容を確認して、追加修正、確認したい部分があれば 12 月 5 日までをお願いします。

奥沢（10 月～11 月活動内容）

10/1（火）zoom 75JAMT 説明会

10/2（水）zoom 日臨技第 1 回災害 WG 会議

10/6（日）第 56 回日本医療検査科学会 シンポジスト

10/8（火）zoom 北日本支部幹事会

10/18（木）zoom JIMTEF オフィスアワー日臨技依頼分

10/20（日）青森県タスク・シフト/シェア講習会

10/26（土）27（日）軽井沢 第 60 回首都圏・関甲信医学検査学会シンポジスト

10/31（木）zoom 日臨技：全国・支部学会あり方 WG 会議

11/7（木）zoom 日臨技 予算委員会

11/10（日）検査と健康展（ショッピングセンターラピア）

11/16（土）川崎 第 5 回日臨技理事会

11/23（土）青森市 野球肘検診

11/24（日）青森県診療放射線技師学術大会（診療放射線技師会長と面談）

【議題】

1. 功労賞対象者の承認について

- ・三上 昭夫
- ・石山 雅大
- ・櫛引 美穂子
- ・奥沢 悦子

理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

2. 来年度の県学会ランチョンセミナーの金額について

今年度は 5 万円だったが物価高騰もあり来年度は 10 万円としたいとの提案があった。

理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

【その他】

1. 野球肘検診について

青森会場は二日間で 446 人実施。その中で 5 人所見あり。青森会場は青森市内の技師が、弘前会場は弘前市内の技師が担当できるように少しずつ検査可能な技師を増やしていきたい。

2. 75JAMT について

法被とポスターのデザインが決定した。ポスターのデザインは日臨技の加藤次長と共有して問題が無いか確認する。また、学術の企画について北日本支部にも意見を伺う。

上記の事項について理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

議長は以上をもって審議を終了したことを告げた。

令和 6 年度 第 8 回理事会 議事録

1. 日 時：令和 7 年 2 月 27 日（水）18:00-19:15

2. 出席者：奥沢悦子、吉田泰憲、木村正彦、須藤安史、逆井久美子、久保沢勇亮、佐藤舞、高松みどり、小山内誠、齋川牧子、齋藤賢、中島有里、金子なつき、佐々木義明、野中健一、石鳥純子、千葉満、齋藤浩治、中村忠善

3. 欠席者：鳥谷部慎子

定款第 5 章第 32 条及び諸規定により、議長に奥沢会長があたり、書記に齋藤賢理事が指名され、オンラインで審議が行われた。

【報告事項】

1. 学術部経過報告

吉田学術部長より以下の報告があった。

① 各種研修会：青臨技関連（日臨技システム登録分）のみ

11/12 令和6年度 第2回 下北支部研修会 参加者：18名（前回からの確認分）

11/27 令和6年度 青臨技 臨床生理部門研修会（第3回）・・・参加者：166名

11/29 令和6年度 青臨技 病理細胞部門研修会（第1回）・・・参加者：19名

11/30 令和6年度 青臨技 臨床微生物部門研修会（第1回）・・・参加者：33名

11/30 令和6年度 青臨技 上十三支部合同研修会・・・参加者：19名

11/30 安全な輸血医療を行うための研修会・・・参加者：25名

12/04 令和6年度 三八支部 臨床血液部門研修会・・・参加者：16名

12/07 令和6年度 青臨技 臨床一般部門研修会（第1回）・・・参加者：25名

12/10 令和6年度 青臨技 臨床検査総合部門研修会・・・参加者：70名

12/11 令和6年度 三八支部 臨床微生物部門研修会・・・参加者：16名

01/26 令和6年度 都道府県技師会ニューリーダー研修会・・・参加者：40名

02/15 令和6年度 青臨技 生物化学分析部門研修会（第1回）・・・参加者：34名

02/15 第52回 三八地区臨床検査懇話会・・・参加者：67名

02/26 令和6年度 三八支部 輸血細胞治療部門研修会・・・参加者：17名

〈今後開催予定の学会・研修会〉

- 03/01 令和6年度 青臨技 染色体・遺伝子部門研修会（第1回）
03/08 令和6年度 青臨技 臨床血液部門研修会（第2回）
03/15 青森県感染対策協議会（AICON）検査技師部会研修会（ミーティング）
04/20 日本医療検査科学会 第39回春季セミナー
05/31 令和7年度 青臨技 臨床検査総合部門研修会（予定）
06/14～15 青森県医学検査総会・学会（精度管理講習会）
・北日本支部
11/15～11/16 第13回 日臨技北日本支部医学検査学会 新潟県新潟市
日付未定 日臨技北日本支部 臨床生理部門研修会（担当：青森県）
日付未定 日臨技北日本支部 臨床一般検査部門研修会（担当：青森県）
・全国学会
05/10～05/11 第74回 日本医学検査学会 大阪府大阪市

② 令和6年度 青臨技精度管講習会

06/14（土） 八戸グランドホテルで開催予定

…報告会終了後に受講できなかった会員へ向けてアーカイブ配信の予定のため、各部門長および精度管理担当者へ「7分程度の動画」を作成依頼中（当日も作成した動画で報告会を再生し、当日登壇できる発表者が質疑応答に対応）

③ 青臨技会誌について

現在、印刷業者からの初校を確認作業中

④ 研修会参加費の徴収方法

以前より研修会の参加費の徴収方法（電子決済）について相談をいただいていたが、臨床生理検査部門の武田さんより他県での決済方法のアンケート結果を頂いた。運用におけるメリット・デメリットなどを理事で共有したい。

※別紙「Web 決算システムにおけるメリット、デメリット一覧」を参照

⑤ 青森県医学検査学会

日臨技システムに登録済み・・・演題募集期間 2025/02/14～2025/04/21

2. 公益部経過報告

木村副会長より高校生心電図検診について以下の報告があった。

令和7年度の高校生心電図検診は学校の日程が大方決まり、現在は各支部で派遣技師の調整中。

3. 渉外部経過報告

須藤渉外部長より災害対策マニュアルについて以下の報告があった。

サイボウズにアップロードされているので各自確認して下さい。

4. 事務局経過報告

逆井事務局長より以下の報告があった。

(一社) 青森県臨床検査技師会

会員数 630 名 名誉会員 7 名、永年会員 51 名

4 月からの総数：新入会 12 名、再入会 2 名、転入 5 名、転出 8 名、退会 13 名

① 衛生検査所立入検査の実施について

青森県精度管理専門委員 吉田泰憲様 1 月 23 日 BML 弘前への立入。

② 第 5 回日本睡眠検査学会学術集会について

青臨技で後援しました。

③ 令和 7 年度永年会員の申し込みについて

3 名の申し込みあり (菊池美雪さん、小杉貴久さん、浜田明彦さん)

④ 県学会のランチョンセミナー申し込み状況について (締切 2 月 28 日)

現在、1 社…積水メディカル株式会社様 凝固検体の取扱に関するコンセンサスをテーマに検討している (内容未定)

PHC 株式会社より問い合わせはあった (申込まだです)

5. 奥沢会長より報告

① リーダー育成研修会について

令和 7 年 1 月 26 日に青森新都市病院で開催された。今後は日臨技から講師が来るのではなく青森県独自で企画することになる。

② 災害対策について

災害対応訓練に向けたグーグルフォームを使用しての青森県内会員の安否確認を検討していく。

③ 青森県臨床検査技師会 奥沢悦子 行動報告

2024 年

11 月 30 日 (土) 日臨技依頼：第 71 回日本臨床検査医学会学術集会 (大阪)

シンポジスト (災害関連)

12 月 2 日 (月) 日臨技災害ワーキンググループ会議 (web)

12 月 4 日 (水) 全国・支部学会のあり方委員会 (Web)

12 月 13 日 (金) 北日本支部内連絡会議 (仙台)

12 月 14 日 (土) 令和 6 年度日臨技北日本支部学術集会 (仙台)

12 月 15 日 (日) JIMTEF 打ち合わせ会議 (web)

12 月 19 日 (木) 連盟勉強会 (web)

12 月 25 日 (水) 第 2 回日臨技予算委員会 (web)

2025 年

1 月 18 日 (土)、19 日 (日) JIMTEF 災害研修会スキルアップコース講師 (東京)

1 月 24 日 (金) 令和 7 年賀詞交換会 (東京)

1 月 25 日 (土) 日臨技理事会 (東京)

1 月 25 日 (日) 都道府県技師会リーダー育成研修会 (青森)

1 月 29 日 (水) 災害協定面談 (青森県庁医療薬務課)

2 月 5 日 (水) 日臨技災害協定説明会打ち合わせ (web)

2月8日（土）愛媛県臨床検査技師会災害研修会講師（愛媛県）

2月12日（水）75JAMT 執行部会議（web）

2月19日（水）第71回臨床検査医技師国家試験：意見集約

2月22日（土）北日本支部幹事会（仙台）

2月25日（火）日臨技生涯教育のあり方委員会（web）

【議題】

1. 会員の退会処理について

逆井事務局長より、日臨技退会者について青臨技も同時退会として処理してもよいかという提案があった。

理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

2. 奨励賞の承認について

事務局より下記二名の奨励賞の承認について提案があった。

・逆井 久美子

・武田 美香

理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

3. タスク・シフト／シェアについて

奥沢会長より、募集しても定員の50人を切る道府県が増えてきているため、日臨技としては複数県の共同開催として進めてほしいと考えている。青森県も単独での開催は難しいため、今後は青森県内での開催はしない事として近隣の県での受講を促したいとの提案があった。

理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

4. 会誌の電子書籍化について

奥沢会長より、日臨技は医学検査等の発行を廃止して電子書籍化する方向のため、青臨技も会誌の冊子での発行を廃止する方向で進めたいとの提案があった。

理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

5. 名誉会員の承認について

奥沢会長より名誉会員の承認について提案があった。

坂牛 省二

理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

6. 令和7年度予算案について

会計より令和7年度予算案について提案があった。

理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

【その他】

1. 第51回青森県医学検査学会について

野中理事より日程および進捗状況の報告があった。

6月14日（土）

13：00～14：00 県理事会

14 : 00～14 : 20 精度管理講習会受付
14 : 20～16 : 30 精度管理指導講習会
16 : 30～17 : 00 定時総会受付
17 : 00～17 : 50 定時総会
18 : 00～20 : 00 情報交換会・祝賀会

6 月 15 日（日）

8 : 20～ 学会受付開始
8 : 50 開会式
9 : 00～10 : 50 一般演題（最大 13 題 104 分）
11 : 00～12 : 00 公開講演 中路先生
12 : 10～12 : 50 ランチョンセミナー
13 : 00～14 : 30 一般演題（最大 11 題 88 分）
14 : 40～15 : 40 特別講演 舩甚先生
15 : 40～15 : 50 閉会式

16 : 30 完全撤収

*学会参加費 1000 円 情報交換会 5000 円

進捗状況

- ・ R7 年 1 月 14 日 一般演題の募集案内
一般演題および抄録原稿登録期間 2025 年 2 月 14 日（金）～4 月 21 日（月）
- ・ 2 月 22 日 日臨技システムで学会登録

今後の予定

- ・ 4 月 講師依頼文書送付
- ・ 4 月下旬、遅くとも GW 明け 開催案内送付
(ランチョンセミナーと情報交換会の申し込みも添付)
- ・ 5 月上旬 講師、ランチョンセミナーメーカーから抄録を頂く
一般演題の採否を決め、要旨集の作成、座長の決定等行う。

2. 75JAMT について

74JAMT のスケジュールが出たら視察するブースの担当等を決めていく。配付するチラシや名刺は出来た。日臨技の会議で学術の企画は各学術の部門長が集まって次の検査学会で何をするか決めることとなった。変更となるのは 75JAMT の後になる予定のため、75JAMT の企画については県の学術部門長から出ている案を元に北日本支部の部門長と揉んでみてはどうかという意見が出た。

3. 全国学会に向けて

奥沢会長より、「全国学会では青森県内からも沢山の演題を出してほしい。より多くの方に発表にトライしてほしいので北日本支部学会等に演題を出す人に 10000 円を補助してはどうか」という意見が出た。

佐藤理事より、「発表者に補助金を出すよりも、発表してみたいがスライド作成や発表のコツが分か

らない人を対象に青臨技が窓口となってアドバイスする場を設けてはどうか」という意見が出た。
話し合いの結果、佐藤理事に企画案を出していただくこととなった。

4. 会誌の電子書籍化について

石鳥理事より、「会誌の冊子での発行を廃止する時期はいつ頃を目処にしているのか」という発言があった。逆井事務局長より、「冊子での発行を完全に廃止した場合、支部便りや学会要旨集、会員施設名簿、賛助会員、論文投稿案内等をどうするか定まっていないため現在は冊子を併用している状態。HPに会員専用ページを作り、冊子の形式で作成した会誌をPDF化して掲載し、パスワード管理するという案があるがセキュリティの問題などもあるので継続審議としたい。会誌編集委員には冊子も作成する前提で進めてほしい」という発言があった。

5. 野球肘検診について

各地区の受診数とOCD疑いの人数について報告があった。

	むつ市	青森市		十和田市	弘前市		五所川原市	合計
施設名と所属	6月29日(土)	11月23日(土)	11月24日(日)	12月1日(日)	12月7日(土)	12月8日(日)	12月14日(土)	
参加者数	9	9	6	10	7	6	6	53
(内 新人)	3	3	2	5	3	3	4	23
参加選手数	105	446		176	301		113	1141
OCD疑い	1	5		1	3		1	11

上記の事項について理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。
議長は以上をもって審議を終了したことを告げた。